

# 9 瀬谷第四地区 地域福祉保健計画

## 1 地区の概況

- ・ 相鉄線三ツ境駅が徒歩圏内にあり、幹線道路である横浜・厚木線や丸子・茅ヶ崎線、瀬谷・柏尾線が交差するなど交通の利便性が高い地域です。
- ・ 年齢3区分の構成は、区平均とほぼ同じですが、老人ホームのある東野台は65歳以上が45.4%であり、区平均の2倍以上となっています。
- ・ 地域内に区役所、福祉保健活動拠点、地域ケアプラザなどの公共施設や特別支援学校、小中学校もあり、福祉保健活動団体の活動が活発に行なわれています。



\* 瀬谷第四地区には瀬谷二丁目の一部も含まれます。

## 2 第1期で取り組んだ主な活動や事業

瀬谷第四地区では、年度ごとに重点テーマと主な取組を設定し、活動を継続してきました。

**【成果】** 個々の活動の成果が目に見える形で達成できており、福祉保健活動の地域への認知度が向上しました。

**【課題】** 引きこもりがちな高齢者への呼びかけが不十分であったことと、「支えあい、助け合いのまち」の構築が20%程度に留まったことが課題です。

**広報活動：** 地区福祉保健新聞などの広報活動により、地域の活動や計画の周知を図っています。

**高齢者を地域で支える活動：** ☆サロンや地域デいの立ち上げ ☆男のボランティアとなりぐみ  
☆気づきのキャッチ・見守りのリレー ☆ハイキング

**健康づくり：** 「元気塾」によるラジオ体操を実施しています。

**三世代交流：** イベントを実施したり、遊びを通して「地域で育つ」「三世代交流」をコンセプトとする「ゆうスリー」が定期的に活動しています。

## 3 第2期計画に向けての課題

第1期計画の振り返りと課題の整理及び第2期計画策定にあたっての重点検討項目の抽出を、平成22年1月から3月にかけて5回、話し合いを行いました。

### ① 各種団体との連携と更なる地域活動の活性化

- ・ 各団体やグループの個性を活かした多様な地域活動と、それぞれの情報共有・連携の強化が必要です。

### ② みんなが明るく、幸せで健康に暮らしていける地区づくり

～希薄化している地域の「支えあい、助け合いのまち」への変革

- ・ ご近所同士が日頃から声かけできる関係の構築と、見守り・助け合う取組を一層推進していく必要があります。
- ・ 障害者やこども・子育てに関する地区の課題や支援策を検討する場づくりが必要です。

### ③ 地域の人材発掘と人材育成

- ・ 地域活動の担い手不足や高齢化があるなかで、人材発掘や人材育成が緊急の課題です。



計画など話し合いの様子



## 4 推進母体

瀬谷第四地区福祉保健計画実行委員会

(瀬谷第四地区社会福祉協議会、連合自治会、民生委員・児童委員協議会等 メンバー18名)

## 5 第2期計画の取組内容

### 元気で明るい楽しいまち

#### I 連携(つながり)の強化

自治会や地区民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会等との連携を図りながら進めます。

- 1 ご近所同士の日頃からの声かけ運動を地域全体に定着させよう！

##### 【具体的な活動目標】

- ① 自治会単位のあいさつ運動 ② 自治会や学校、PTA 等様々な団体との連携

- 2 地域の見守り・支えあい活動を推進しよう！

##### 【具体的な活動目標】

- ① 気づきのキャッチ・見守りのリレー事業・・・訪問員対象の研修実施、情報共有
- ② ラジオ体操(元気塾)活動の拡充及び地域における認知度向上

- 3 子育てと障害者などの地域としての課題と支援策を検討します。

- ① 「地域で育つ」「三世代交流」をコンセプトとする「ゆうスリー」活動の継続
- ② 障害者に対する理解を深め、地域で支援する体制を確立

#### II 高齢者の生きがいづくり・支援

- 1 身近な地域に、気軽に利用できる地域活動拠点を整備します。

##### 【具体的な活動目標】

- ① 既存のサロンの有効活用
- ② 地域の様々な利用ニーズに応える場の確保  
老人クラブ活動、ハイキング、日帰り旅行、趣味・娯楽サークル など

- 2 配食サービスを復活させます。

※ 調理を通した生きがいづくりと併せ、配食による高齢者の見守り活動につなげる。

#### III 情報・交流の機会づくり

- 1 福祉保健新聞を定期的に発行します。
- 2 地域の皆が楽しく集まり、仲間づくりができる「福祉保健まつり」を継続的に開催します。

#### IV 地域活動の活性化

連合自治会や自治会と連携しながら進めます。

要援護高齢者や一人暮らし高齢者、障害者等の見守りと災害時の支援体制を確立します。

#### V 人材発掘・人材育成

地域ケアプラザや自治会、既存のボランティアグループ、小中学校等と連携しながら進めます。

- 1 必要な人に必要な支援ができる体制を整備します。

##### 【具体的な活動目標】

ボランティア活動をしている人の楽しさや活動を身近に感じられる場を、多く設けます。

- 2 地域活動参加率の向上を図ります。

##### 【具体的な活動目標】

地域の様々な利用ニーズや要望等を踏まえた検討を進めます。

- ① 「気軽に参加できる」「楽しく続けることができる」イベント
- ② 地域活動実践者の声や活動の PR・発表の場を多く設けます。